

# 持続可能な観光のためのビジネス基準と自己評価システムにおける課題と展望

2023年3月16日

第10回国連CEFSCCT観光部会

STプロジェクトサブリーダー

板垣和芳

# 1. 持続可能な観光のためのビジネス基準と自己評価システムにおける課題

## (1) 運用上の検証

- 国連CEFACTのホワイトペーパー（ドラフト版）において、ビジネス基準を設定し、自己評価システム手法を提示したが、事業者が実際に運用する際に、それが所期の効力を発揮し、成果を収めることが可能かどうか、確認を得る必要がある。

# 1. 持続可能な観光のためのビジネス基準と自己評価システムにおける課題

## (2) 自己評価システムの深度化

### 1) 国連CEFACTのホワイトペーパーにおける自己評価システム

- 事業者のSDGsの理解度に応じて、持続可能性レベルが1～5の段階的に示され、事業者は自己の取組み状況と成果をもとにレベル値で自己評価することになっている。

# 1. 持続可能な観光のためのビジネス基準と自己評価システムにおける課題

## 1) 国連CEFACTのホワイトペーパーにおける自己評価システム

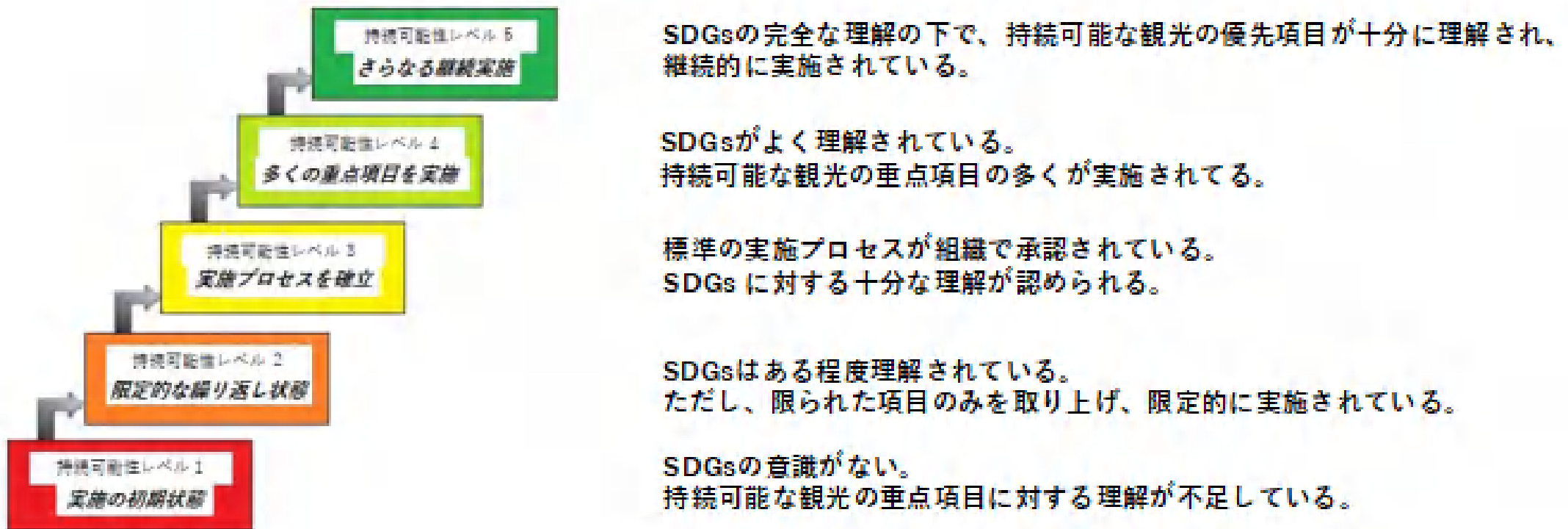


図1 持続可能性レベルの改善経路

# 1. 持続可能な観光のためのビジネス基準と自己評価システムにおける課題

## (2) 自己評価システムの深度化

### 1) 国連CEFACTのホワイトペーパーにおける自己評価システム

- 事業者は必要性に応じて、優先度の高いビジネス基準から着手することになるが、その取組が的確に行われるように、JSTS-Dのような各項目から成るチェックシート（以下の2)参照）があれば有効と思われる。

### 2) 日本版持続可能な観光ガイドライン（JSTS-D）における自己評価 （7. 指標活用要領）（参考）

- **初級】** JSTS-Dの各項目をチェックシートとして活用することで、それぞれ「○」、「×」等を付けることにより、地域の自己分析を行うことができる。
- **【中級】** 各項目の運用において自己評価を行う。
- **【上級】** 自己評価だけでなく、認証団体から優良な取組であると評価されるレベルを目指して取組を行う。

## 2. 持続可能な観光のためのビジネス基準と自己評価システムにおける今後の展望

### (1) 新たなプロジェクトに向けた動き

- 国連CEFACTにおける観光関連プロジェクトは、図2に示すように、
  - ・ Green paper開発プロジェクト(2016年6月～2019年4月)
  - ・ Experience Programs (EPs) Technical Artefacts Project (2019年9月～2022年10月)
  - ・ Business Standards for Sustainable Tourism (ST) Project (2019年4月～進行中)を継続して実施してきた。

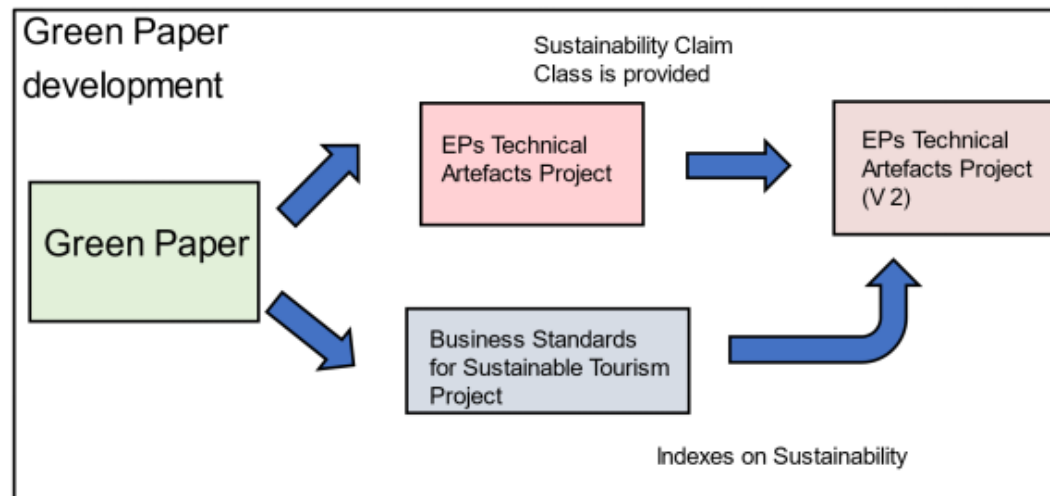


図2 観光関連プロジェクトの流れ

## 2. 持続可能な観光のためのビジネス基準と自己評価システムにおける今後の展望

### (1) 新たなプロジェクトに向けた動き

- 将来EPsの提供する情報網を通じてビジネス基準や自己評価結果を公開することで、購入者はEPs等の購入時に持続可能性のレベルを確認することができる。（図3 参照）
- 新たなステップに向けて、現在のEPsとSTの各プロジェクトを統合する検討を行っているところである。

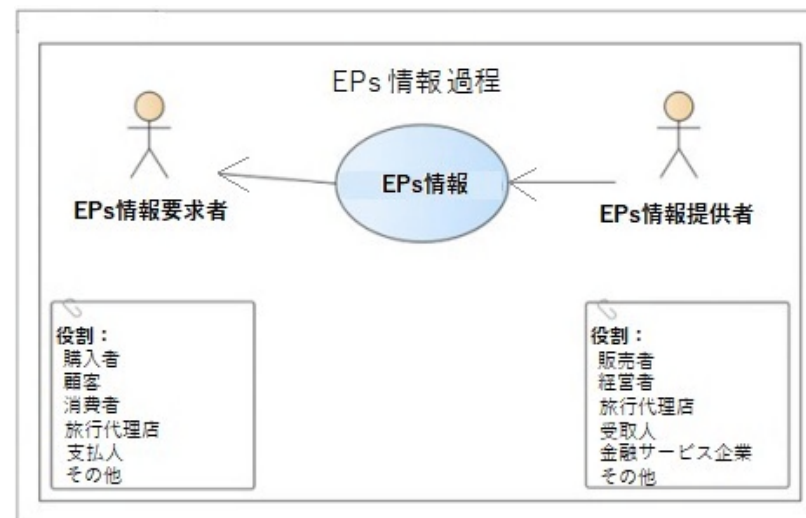


図3 自己評価情報の流れ